

これが年末手当に対する 私たちの声だ！ No1

3.18ヶ月

2019 年末手当の妥当額を最低出すべき業務量はなにも減らず、逆に忙しくなっている。もらうべきものはもらう。しっかり要求するべき。コロナ禍でも気をつけて業務している。

3.2ヶ月

過去の決算は右肩上がりだったが、ボーナスは上げ止まりが続いた。仕事量は年々増加。過去の支給額を見れば簡単に下げてはならない。守るべき生活がある。コロナ禍打倒するには必要な額。

3.2ヶ月

会社は支払う体力ある。夏期手当が減額となり私たちの体力は失われつつある。

3.6ヶ月

あと 25 年ある住宅ローン返済が滞ってしまう。子供の養育費が圧迫して未来ある子供たちの教育に影響生じる。

3.2ヶ月

会社は今まで内部金を溜め込んできている。充分出す能力がある。

2.9ヶ月

今年は収入減のため。

3000万

老後の資金

3.18ヶ月

ここ数年増収増額できたなかでも変わらず一定だった。今年は厳しいのは承知だが個人的には最低でも去年と同程度を求めたい。

3.0ヶ月

夏冬合計 6ヶ月と考えて夏の 2.4ヶ月を引くと 3.6。コロナなどを考えて-0.6と考えても 3.0は確実に欲しいです。

100万

生活費の不足を補うためです。

基本給×3

多少の貯蓄をしたい。